

令和6年度 特色ある道德教育推進校

県立船橋法典高等学校

研究主題

共生社会に向けて、自律した生き方ができる生徒の育成

取組 1 「道德」を学ぶ指導の工夫

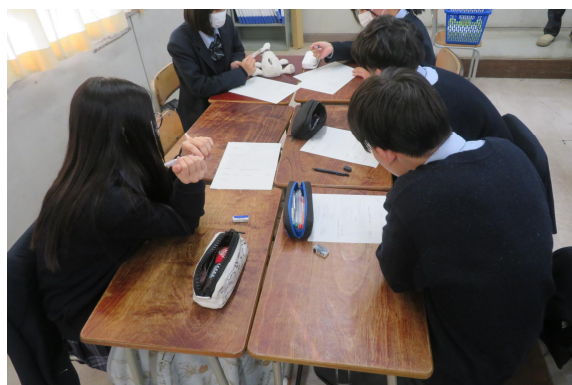
工夫 1 自分の考えを言語化する

感想用ワークシート	1 年
みんなが同じ気持ちを持ってらるわけじゃない、人に合わせていることもある。	
今まで自分が思っているから人もこう思っていると思ってしまっていた。	
自分の考えを人に伝えることで、調整が必要だと気づいた。	
自分の考えを伝えることで、自分の考えを整理することができた。	

感想用ワークシート	1 年
大学の授業が二人は同じようなことをやってる。それがいい。	
この授業について考えたことは、自分の考えを伝えることで、自分の考えを整理することができた。	
自分の考えを伝えることで、自分の考えを整理することができた。	
自分の考えを伝えることで、自分の考えを整理することができた。	
自分の考えを伝えることで、自分の考えを整理することができた。	

道德に関わる様々な取り組みを通じて、授業内の振り返りや学んだこと等を言語化することで、自己の思考を整理するとともに、他の友人との意識との共有をはかった。

工夫 2 話し合いによる意見共有



それぞれの意見をまとめた後に、班の形で共有を行った。意見を出し合った後に班全体での意見等を集約し発表するなど協同して課題にあたる姿が見られた。

工夫 3 自己の在り方を客観的に捉えなおす

千葉工業大学より外部講師の先生を招き、講和を実施した。大学で実施している内容とほぼ同様の内容とうことであったが、生徒の反応も良く実りの多い講演であった。

講演では、「社会で使える心理学」をテーマとして、講演を行い、高校生の抱えている悩みについて、「自己覚知」や「防衛機制」、「リフレーミング」といった心理学分野からのアプローチを行うことで、自己の在り方を客観的に捉える姿が見て取れた。



取組 2 学校教育全体を通じた道徳教育の充実

道徳教育全体計画（一部抜粋）

【学校の教育目標】

本校の教育方針「学修 創造 躍伸」の下、次のような人間を育成する。

- （１）自立した社会生活を営むために必要な基礎を身につけた人間
- （２）豊かな人間性と規範意識を持ち、尊敬と思いやりを示せる人間
- （３）自らの生き方や在り方を考え、進路の決定に努力できる人間

【道徳教育の重点目標】

本校の教育方針に基づき、豊かな人間性(感性・倫理観・正義感・公正さ・社会貢献・自立心・自己制御力・責任感・思いやりの心・他者との共生)を持ち、道徳的価値を大切にする教育を推進する。

【学年ごとの重点目標】

- 1 学年：基本的な生活習慣を確立する、円滑な人間関係を構築する
体験学習を通じて生きる力を養う
- 2 学年：体験活動やボランティア活動を通じて人間としての在り方・生き方を考える
互いに尊重しあう態度を養う
- 3 学年：社会人となるための責任、公共心、他者への配慮を養う
自己実現に向けて自己を見つめなおす

【今年度「道徳」を学ぶ時間年間指導計画】

上記、道徳教育の全体計画に基づいた道徳教育の目標を達成するために、右図の年間指導計画を立て総合的な探究の時間と特別活動の時間を用いながら道徳教育を推進している。

他者との関わりの中で、自律した生き方ができる生徒の育成を目指し、外部講師を招いて、他者との関わりについて客観的に捉えなおす。地域の清掃ボランティアを通じて奉仕・共生の態度を養う。また、家庭科の授業と連携した車いすの体験授業や人権教育の一環としてジェンダーマイノリティーの方の講和を聴くなどの活動を行った。



清掃活動の様子

令和 6 年度 「道徳」を学ぶ時間 年間指導計画表

月	日	特別活動		総合的な探究の時間
		LHR	学校行事・生徒会活動	
月	日	内 容	内 容	内 容
4 月	10	新入生オリエンテーション 【感謝の尊重】	入学式 【よりよい学校生活】	25 道徳について 【自主・自律】
	22	道徳の授業 【感謝、思いやり、感謝】	防災訓練 【生命尊重】	
	13	道徳の授業 【集団生活の充実】	学校大会 【集団生活の充実】	2 校外学習について 【よりよい学校生活について】
5 月			生徒総会 【よりよい学校生活】	
			24 校外学習 【自己の役割と責任】	
				27 校外学習【自己の役割と責任】
6 月	8	道徳の授業 【集団生活の充実】		13 道徳について 【自主・自律】
	17	道徳の授業 【自己規範】		
7 月			学年集会 【生命尊重】 【正義の判断】	
9 月	9	道徳の授業 【自己の役割と責任】		
10 月			7 防災訓練 【生命尊重】	
			17 校外学習 【自己の役割と責任】	
			31 学年総会 【自己の役割と責任】 【よりよい学校生活】	
11 月	28	校外清掃 【奉仕】		14 道徳の授業 【自己の役割と責任】
12 月			15 人権教育 【生命尊重】	
			19 安全教育 【生命尊重】	
			20 学年集会 【生命尊重】 【正義の判断】	
1 月	9	道徳の授業 【自己の役割と責任】	30 百人一首かるた大会 【伝統と文化の尊重】 【礼儀】	
2 月	13	道徳の授業 【自己の役割と責任】	道徳ガイダンス 【自己の役割と責任】	
3 月			安全教育 【生命尊重】	
			学年集会 【生命尊重】 【正義の判断】	

主な成果（○）と課題（●）

○道徳教育を通じて、答えのない問いについて考えを深める機会を設定した際には、生徒が前向きに取り組んでくれるか不安も多かったが、異なる意見を受容する姿勢であったり、主体的に課題に取り組む姿が見られるなど、生徒の道徳授業に取り組む姿は全般的に良好であった。

●答えの無い問いを扱ったがゆえに、授業の設定が難しく感じた。

●話し合いによる意見共有を用いたが、公開授業の際に、匿名性を担保した方がより活発な意見が出る場面もあるように感じた。ICT の導入等でそうした問題を回避し、より思考の深まる授業方法の模索が必要である。

●総合的な探究の時間や特別活動の時間に留まらず、学校全体の活動の中で「道徳教育」の視点をもつことが重要であるように感じた。そのため、学校全体の組織運営との連携を深めていきたい。

授業実践事例

1 公開授業について

(1) 授業公開・日時

令和6年12月2日(金) 第6限 午後2時25分～午後3時15分

(2) 主題名 : 「大人って何？」

(3) ねらいと教材

大人として他者とどのように向き合うべきかを考える(自己理解・公共の精神)

教材 : 教員作成プリント

参考文献 : 藤井剛『公共の授業と評価のデザイン』、清水書院、2023

2 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

2022年に改正民法が施行され、成人年齢が20歳から18歳に引き下げられた。これを受けて、「大人としてどのように生きるべきか?」「大人とは何か?」といった課題が高校生にとってより身近なものとなった。「大人としての在り方生き方」というフィルターを通して自己を顧みること、より多角的な視点から自己の考え方を見つめなおし、自己理解を深めることを目的とした。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

普段授業を受け持っていないクラスでの授業であったので、授業の予想が中々立たず不安であったが、当日の授業では前向きな姿勢が見られた。正解の無い問いに対して、他の生徒の意見や、大人の意見、青年期の発達段階等各教科の学習活動の中で取り扱う視点等、他者の考えをもとに自分の考えを深められるような場面を設定することを狙った。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

教員作成のプリントを主として授業を展開した。下記の資料をもとに、立場の違う視点で類似性の高い状況について自分がどう行動するかを考えることで、自身の中にある大人としての視点に気づきを持たせることを目的とした。

3 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	指導上の留意点 評価(☆)
導入 (5分)	質問1: 何歳から選挙にいくことができますか? 発問1: 社会に出る前の準備として、本日は「大人」とはどのような存在か? イメージを整理してみましょう。	・18歳以上	・近い将来成人になるということを自覚させ、前向きな取り組みを促す。
展開 (35分)	○ワークシート1を配布 発問2: 子どもと大人のイメージの違いについて考えよう!! (10分) ・自分の考えをまとめる。 ・その後数名に発表させながら、クラスメイトの考える大人らしさを板書・整理する。 課題1 著名人の年齢並び替えクイズ(	・責任がある ・子供より自由 ・仕事がとにかく大変そう ・好きな髪型や服装ができてうらやましい	・明快な答えがないことを随所で確認する。 ・必ず根拠を持

	15分) 何人かの著名人の名前をあげ、より「大人らしい」と考える順番に並び替える ○周囲の友人と情報を共有する。その後、各班ごとに発表し、クラス内での意見を共有する。 ○ワークシート2を配布する。(生徒には伝えずに表裏で内容の異なるプリントを配布) 課題2「大人」としての立場を解答している生徒、「高校生」としての立場で回答させ、質問項目1～4についてAの生徒が多いか、Bの生徒が多いかを挙手させて確認する。 ・最後にクラスの半分で、それぞれ回答している立場を変えていたことを種明かしする。	・並び替えを行う根拠についても書かせる。 ⇒人に迷惑をかけているから子供 ⇒肩書が偉そうだから大人 ⇒単純に見た目から ・立場の違いによって回答が異なることが予想される。	ちながら順番分けを行うことを伝える。 ・「立場」の違いが判断の違いを生むことを気づかせたい。
終末 (10分)	「大人と子供」の違いについていくつかの定義を紹介する。 本日の活動を振り返り、自分がなりたい「大人」になるために今自分が取り組みたいことを考えさせる。		

4 他の教育活動との関連

公民科・家庭科・保健体育科等で取り扱う青年期の課題についての知識とも合わせながら授業を実施したい。

5 授業の様子

(1) ワークシート2の例 (一部抜粋)

質問2 あなたは明日、とても大切な期末試験の予定で、自分の進路を考えてもここで成績をあげておくことがとても重要です。試験前日の夜をどのように過ごしますか？ A ここまで勉強してきたから大丈夫！いつもと同じ時間通りに寝て、体調を整えて試験に臨みます。 B 試験時間ギリギリまで勝負！睡眠時間を大幅に削って、(もしくは徹夜で)試験に臨んで成績UPを目指します。	質問2 あなたは今会社員として営業の仕事を行っています。明日には、とても大切なプレゼンの予定で、会社にとっても自分にとってもチャンスです。プレゼン前日をどのように過ごしますか？ A ここまで準備してきたから大丈夫！いつもと同じ時間通りに寝て、体調を整えて試験に臨みます。 B プレゼン時間ギリギリまで勝負！睡眠時間を大幅に削って、(もしくは徹夜で)プレゼンに臨んで契約獲得を目指します。
高校生 ver.	大人 ver.

(2) 生徒の様子

班別の活動や事後の感想ワークシート等で前向きな姿勢が見られ、授業全体を通して意見交換をしやすい雰囲気の中で実施できたように思う。問題点としては、導入の部分で子供と大人の違いの例を法律の違いから入ったためか、大人のイメージを問うた際に、免許・資格等の制度的な違いという偏った点と、ワークシート2に取り組ませた際に、子供とおとなの違いがこちらの予想ほど大きく出なかった点があげられる。こちらの問いかけの言葉や、またICTなど技術を活用するなど問いかけの方法を考えていくことで、より生徒の思考を深める授業へとつなげていきたい。